

東日本大震災で被災した文化財資料救済にご協力を

一般社団法人日本医史学会
理事長 酒井 シヅ

さる3月11日の大震災により多くの人命が失われましたが、文化財にも多くの被害が出ております。被害に遭った貴重な歴史的資料を救済するために、NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク（理事長東北大学東北アジア研究所センター 平川新教授）が精力的に活躍しています。しかし、救済しなければならない資料は膨大であり、その現状について以下のような報告が参りました。多額な資金を必要とする文書救済のために、本学会に協力を求めています。一般社団法人になった日本医史学会は、学会としてまとまった寄付ができませんので、会員各自が下記の口座に募金することをお願い致します。

募金先 ゆうちょ銀行

振込口座：02280-2-89604

口座名義：NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク

■ 参考資料

2011年8月23日

日本医史学会
理事長 酒井シヅ様

東北大学東北アジア研究センター 教授
NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク 理事長
平川 新

拝啓 貴会におかれましては日本の医療のために日々ご尽力をいただき、誠にありがとうございます。

私が理事長を務めますNPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク（略称：宮城資料ネット）は、2003年の宮城県北部地震の直後に発足した歴史資料の保全を目的とする団体です。歴史資料とは、明治時代までに、毛筆で和紙に書かれた古文書のことを指します。時代的には江戸時代や明治時代の古文書が最も多く、時として戦国時代の古文書が発見されることもあります。

こうした古文書は、各地の博物館や歴史資料館などに保管されておりますが、それは全存在のうち1割にも満たない分量です。古文書の9割以上は民間の個人宅に、人知れず残されております。私たち歴史研究者は、これらを探し出して歴史研究の材料としております。土中を発掘する考古学では新しい発見がありますと、しばしばニュースで報道されますが、じつは文献史料である古文書も旧家の土蔵や倉庫などから、次々に「発見」されております。歴史研究者や郷土史家たちは、こうして発見された古文書を解説・分析しながら、地域の歴史や日本の歴史を解明してまいりました。

2003年に発足した宮城資料ネットは昨年末までに、岩手県南から宮城県域にかけて415軒の旧家を訪問して、古文書の保全や写真撮影をおこなってまいりました。撮影コマ数は、約70万コマにも及んでおります。

ところがこのたびの大震災により、古文書を所蔵する旧家が大量に被災いたしました。壁が崩落した

り倒壊した土蔵も少なくありません。沿岸部における津波災害の惨状は前代未聞でしたが、古文書もろともに流失した旧家も、すでに十数軒確認されております。

宮城資料ネットでは、大震災の発生以来現在まで被災地での古文書救出の活動を続けてまいりました。8月20日現在で65軒の被災旧家を訪問し、その半数で歴史資料を緊急搬出しました。津波で泥まみれになった古文書は洗浄し、一枚一枚めくりながらエタノールを噴射してカビの発生を防ぐ保存処理を実施しています。すでに一万点以上の歴史資料を救出し、保存措置を講じているところです。

国や自治体の指定文化財ですと行政が責任をもって保護することになっておりますが、個人宅に所蔵されている古文書等は、そのほとんどが未指定文化財ですので行政の保護の手が及びにくい状態になっております。そのため私たち宮城資料ネットでは自力で資金を確保して、個人宅所蔵古文書の保全作業を展開しております。

私たちの事務局には、被災した古文書所蔵者から歴史資料の救援依頼が今も続いております。おそらく、こうした救出活動は今年いっぱいには続くのではないかと思います。しかも私たちの活動は、単に被災家屋から古文書を搬出するだけではなく、一点ごとに保存用の中性紙封筒に封入し、全点の写真撮影も実施しなければなりません。津波で汚れた史料は洗浄し、消毒をする必要もごございます。

古文書の全点撮影は、もし原本がなんらかの事情で失われたとしても写真データだけは後世に残すために実施しております。今回の大津波では沿岸地域にあった大量の古文書が流失しましたが、大津波前の保全活動で撮影していた写真データは残されました。私たちの実施してきた活動の意義が、こうした悲しい形で証明されてしまったのです。

以上、宮城資料ネットの活動をご説明させていただきました。

宮城資料ネットは、今後も被災地での古文書救援活動を続けてまいります。救出史料の写真撮影を終えるまでには、おそらく最低でも5年間は要するものと思われまます。その保全活動のためには、下記のような経費を必要としております。

*古文書収納用の中性紙封筒

年間に2万点ほどの史料を保全します。中性紙封筒は特注品で1枚60円程度です。

*デジタルカメラ

大規模調査もあるため20台は常備しておく必要があります。撮影枚数が膨大なため、すぐに消耗してしまいます。

*カラートナー

撮影した史料は全点プリントし、4カ所に保管します(史料所蔵者、地元の教育委員会、東北歴史博物館、東北大学)。プリント枚数は毎年10万枚近くに及びますので、カラートナーを大量に消費いたします。

*謝金

震災直後はボランティアによる奉仕活動もありますが、年間作業日数は150日程度に及びますので、ボランティアの無償奉仕に頼ったのでは人員を確保できません。学生等に謝金を支払うことによって事業の継続性を確保する必要があります。

地域に残されている古文書を守り残して後世に伝えなければ、地域の宝、日本の歴史は失われてしまいます。私たちNPO法人宮城資料ネットの、地味ですが重要な活動にご理解をたまわり、ご寄付を頂戴することができますれば、ありがたく存じます。なにとぞご検討のほど、よろしく願い申し上げます。